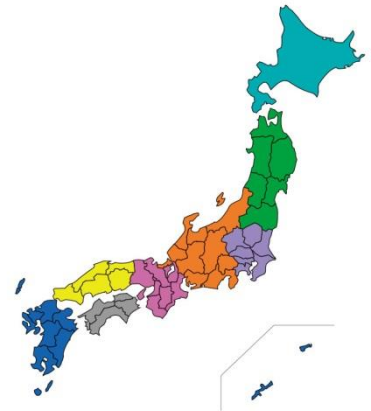


平成28年度

# 全国大学附属病院 研修医に関する実態調査

地域医療検討委員会  
委員長 守山正胤



# 調査項目

厚生労働省の報告では

H27年の**新研修医の41.7% (3,436人)**が**大学**で研修



## 研修医の動向を調査・解析

1. **初期研修医**の受け入れ状況
  - ◎充足率 ◎自大学卒業生の割合
2. **後期研修医**への移行状況
  - ◎卒業人数に対する比率
  - ◎自大学卒業生の割合
  - ◎卒業生の内、自大学選択者の割合
  - ◎選択診療科
3. **新研修医制度施行以降**の状況
  - ◎大学帰属医師総数

# 初期研修医の充足率は各地域内ではばらつきがある

図 A-1 初期研修医の充足率の推移（立別）

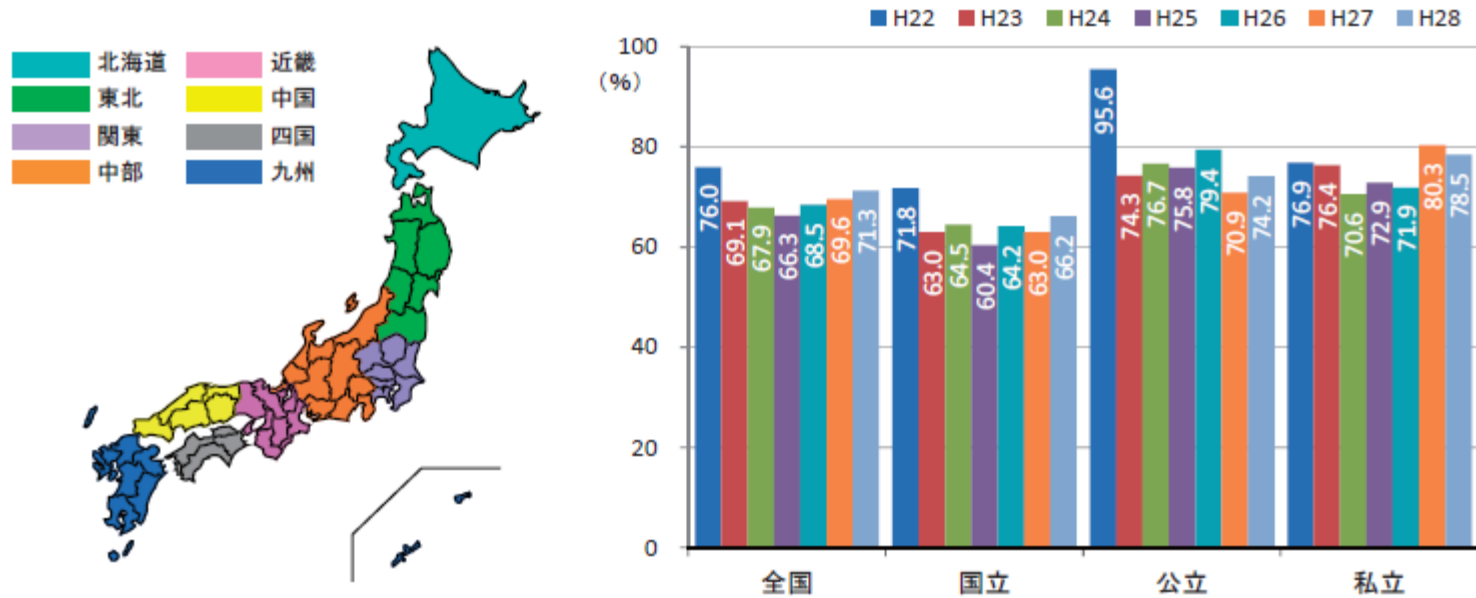
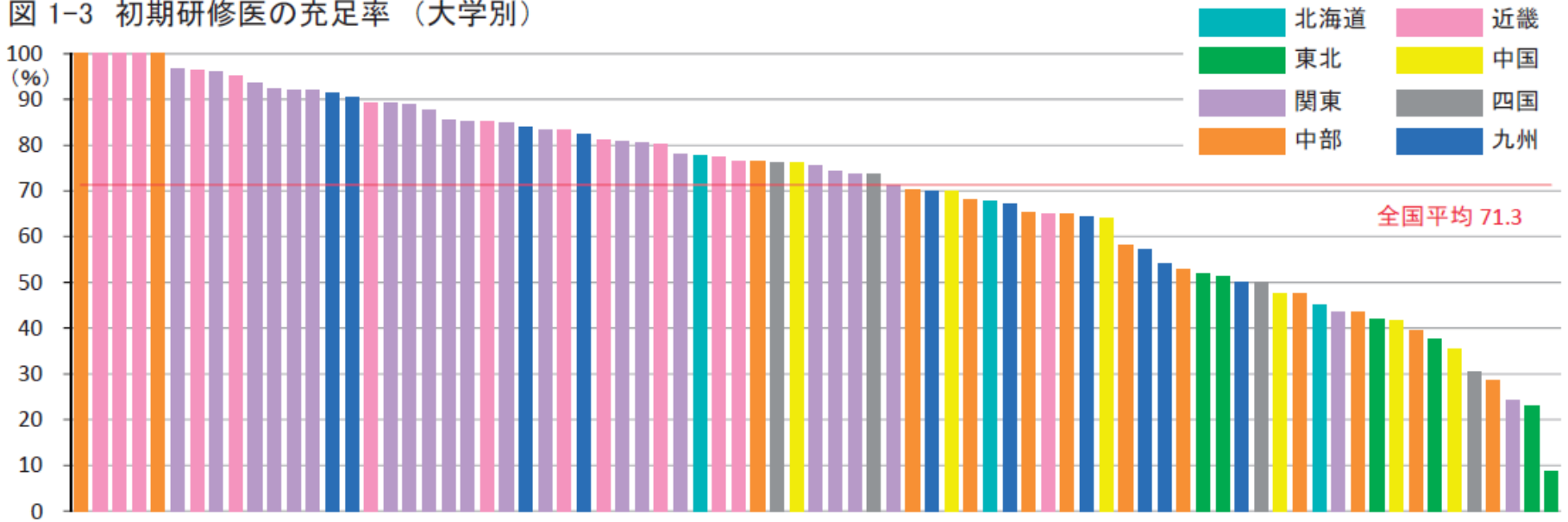


図 1-3 初期研修医の充足率（大学別）



# 初期研修医の充足率は中大都市の大学、大規模大学で高い

図 A-4 初期研修医の充足率の推移

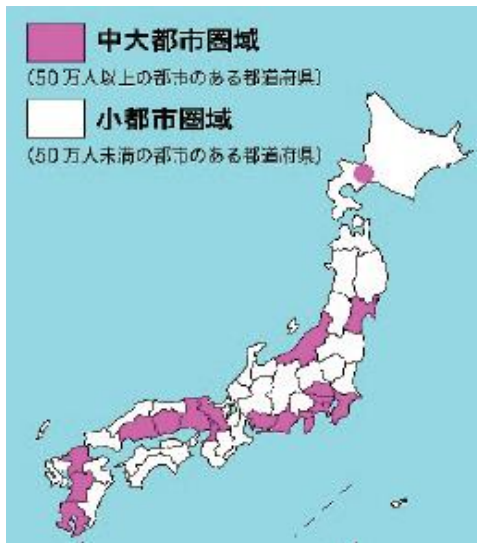
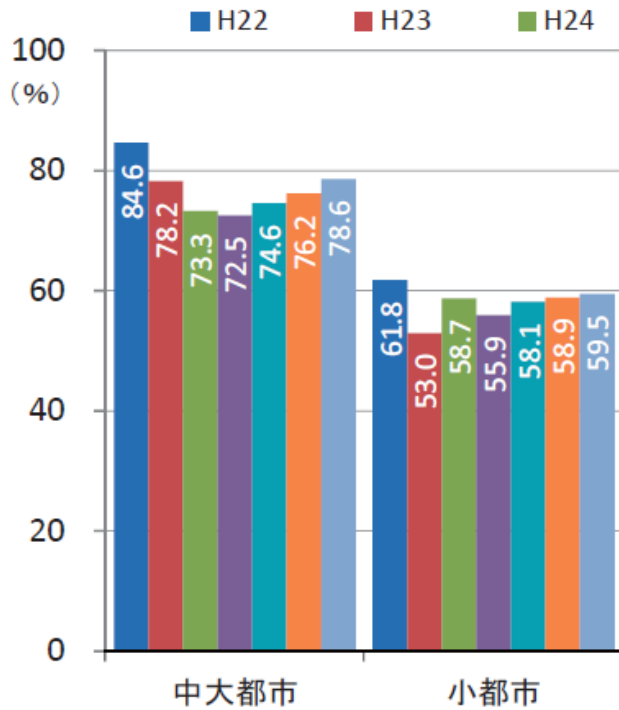
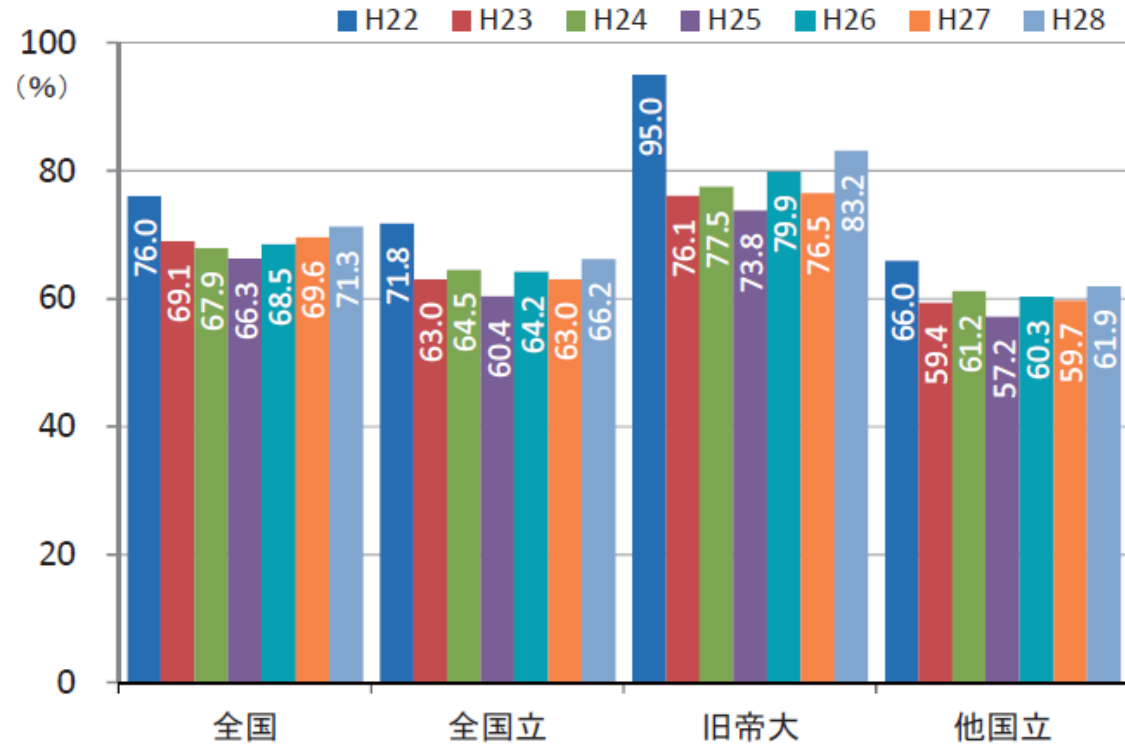


図 A-3 初期研修医の充足率の推移 (旧帝大)



# 初期研修修了医の受入れ率は小都市の地方大学では十分回復していない

図 C-1 受入れ率の推移（都市別）

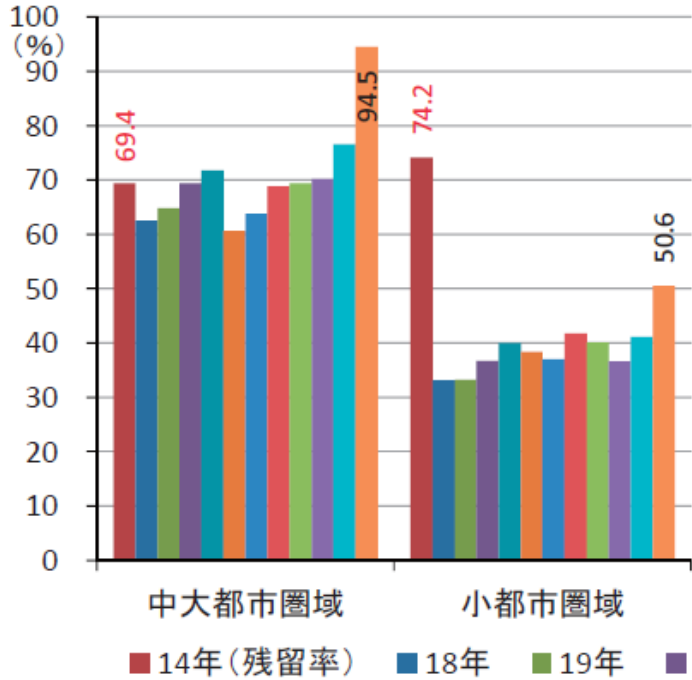
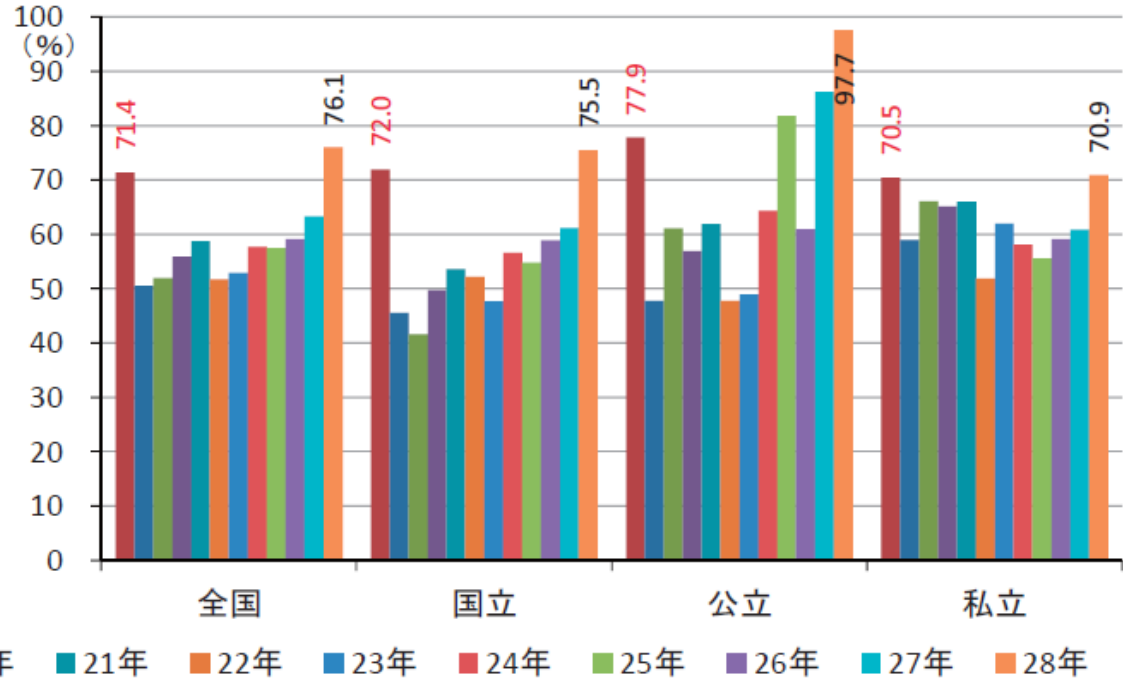
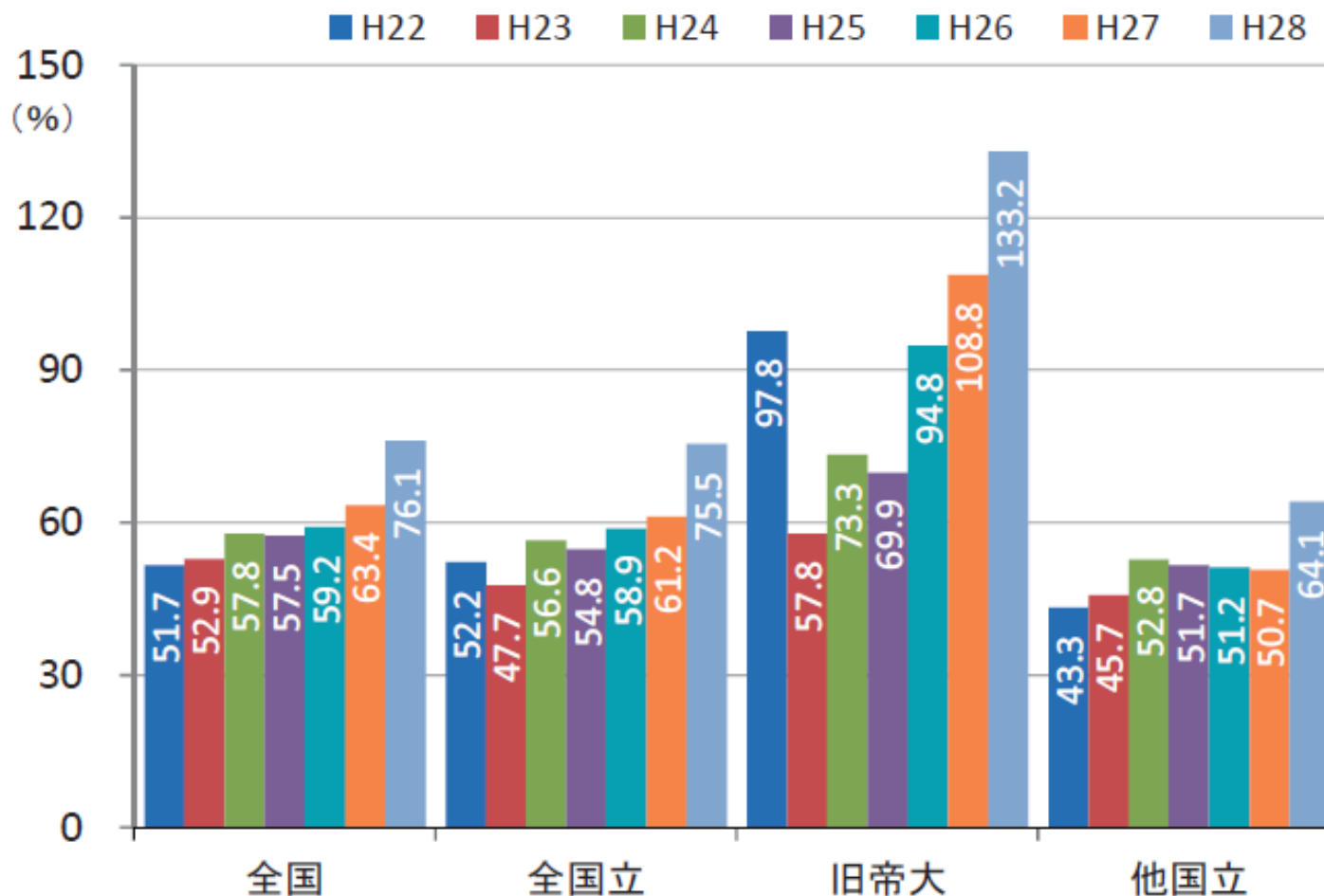


図 C-2 受入れ率の推移（立別）



初期研修修了医の受入れ率は大規模国立大学で上昇しているが、他の国立大学では十分回復していない

図 C-4 受入れ率の推移



# 小都市大学の初期研修修了医は自大学卒業者の比率が高い

図 D-4 自大学卒業者の割合の推移

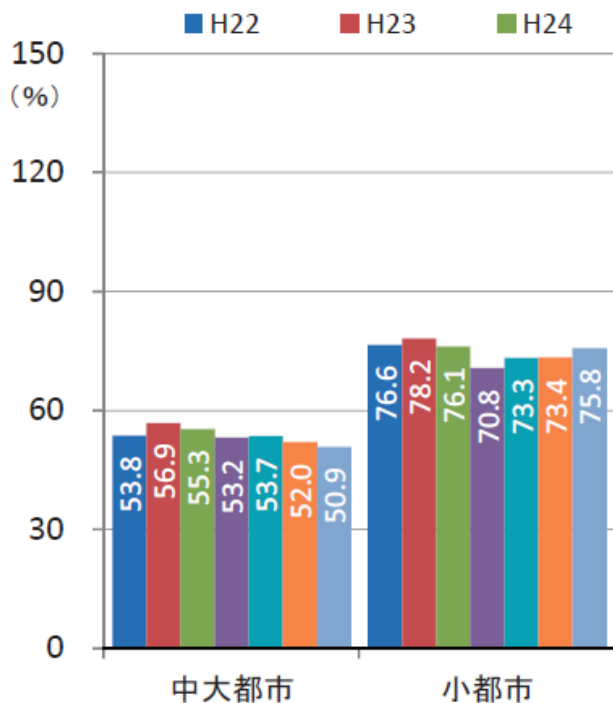
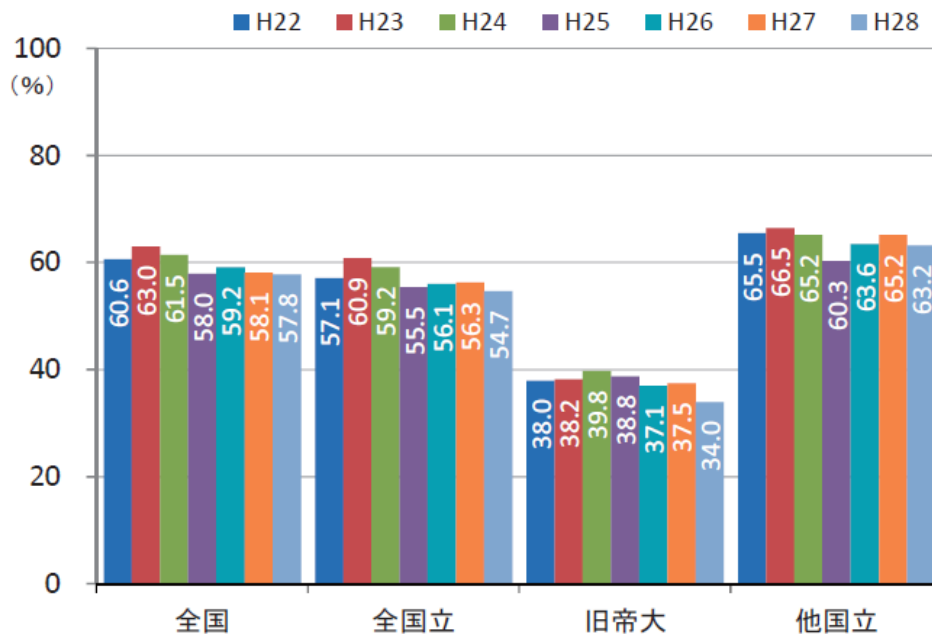
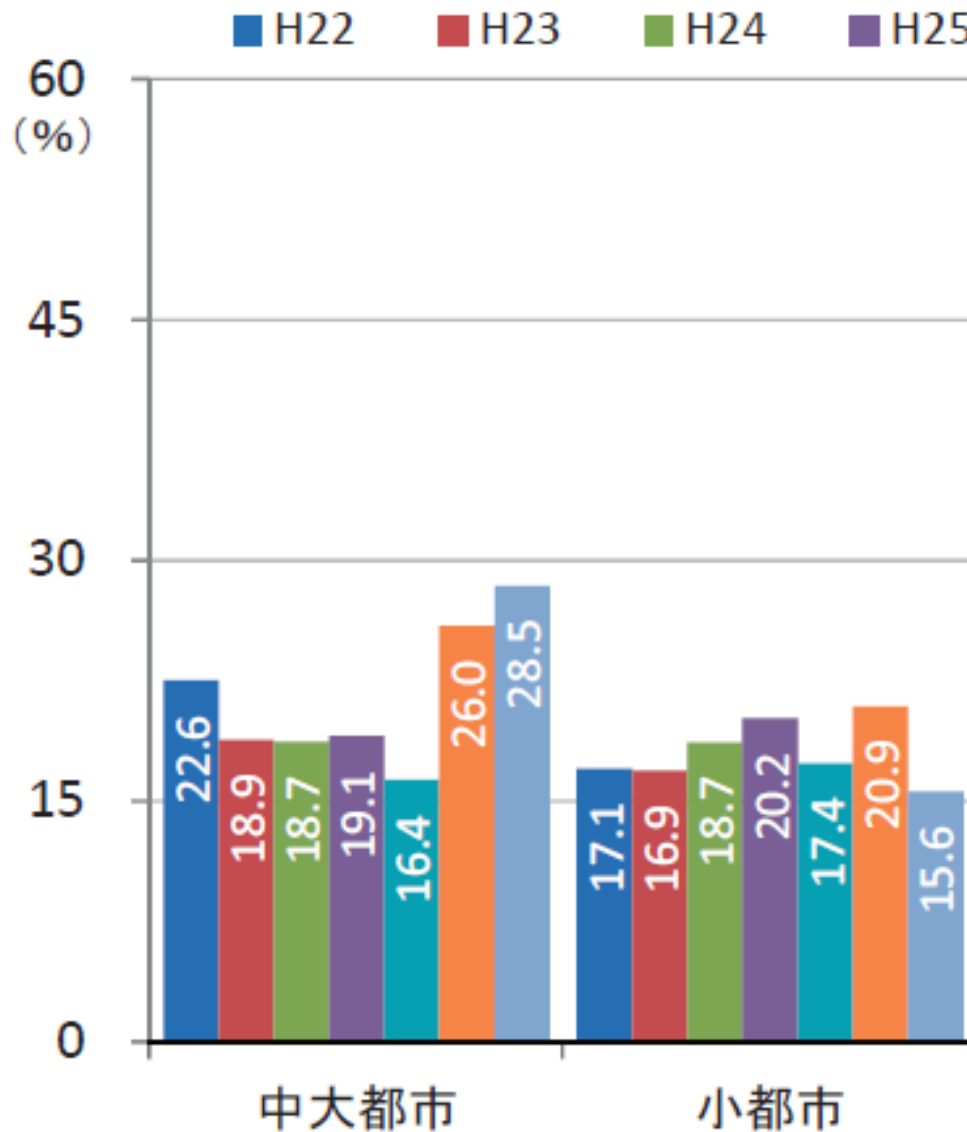


図 D-3 自大学卒業者の割合の推移 (旧帝大)



後期研修医出向率は中大都市の大学では上昇し、  
地方大学では変化していない

図 F-4 初期研修修了者の出向率の推移

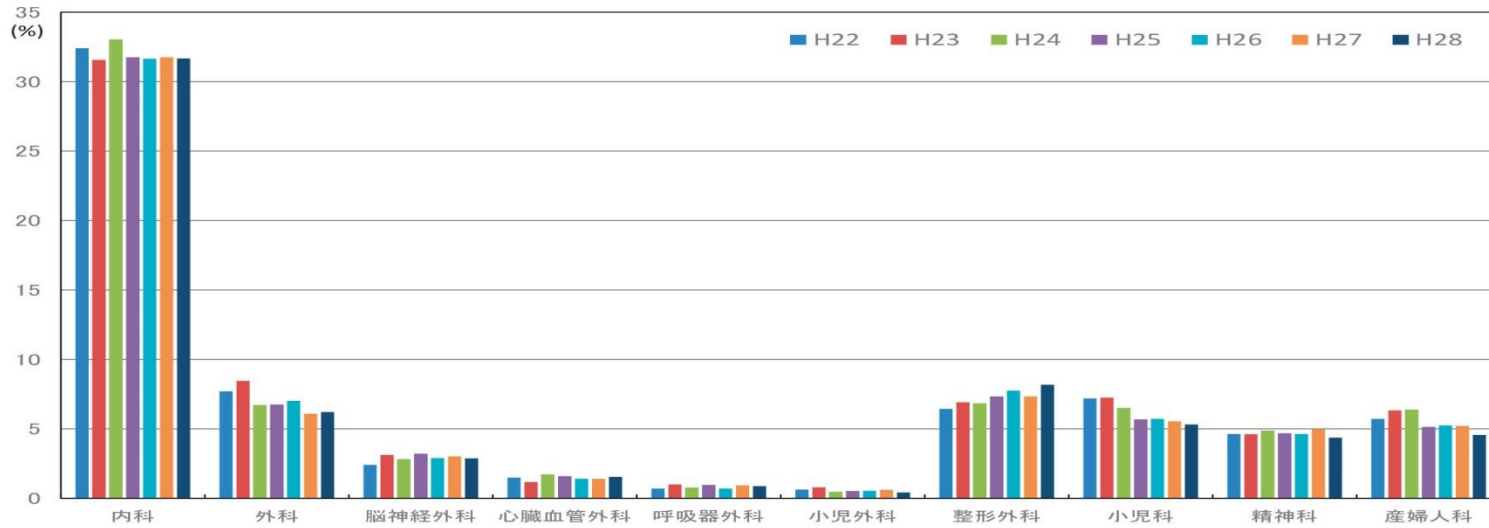




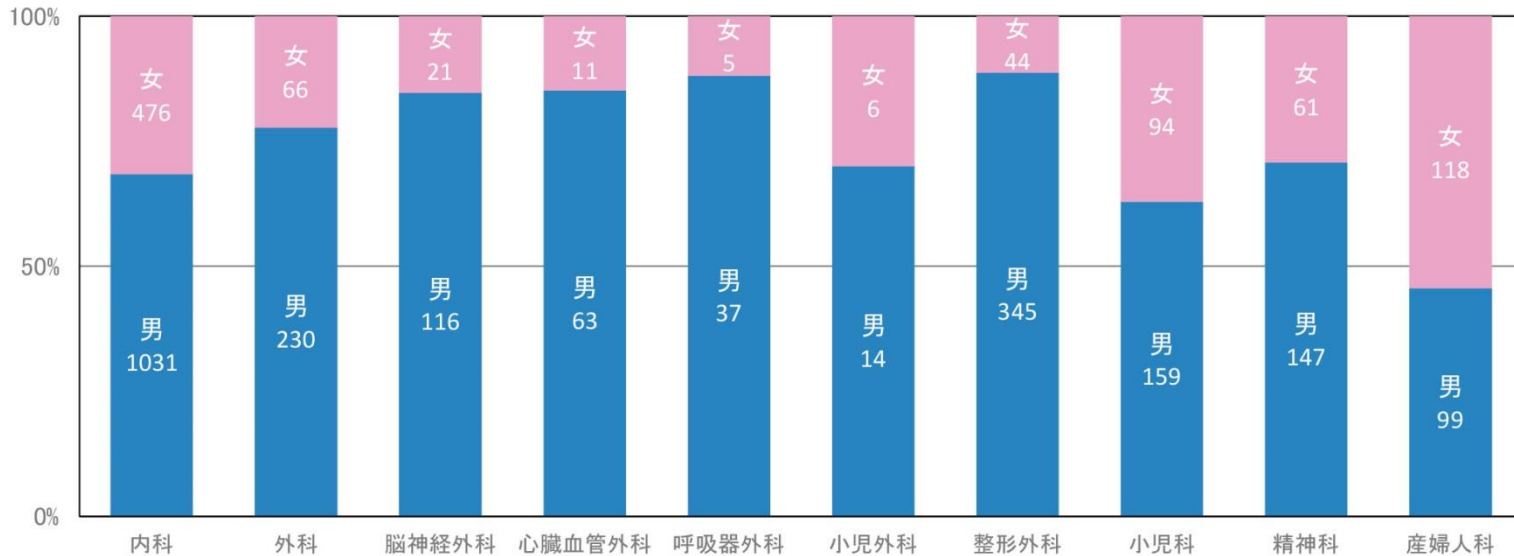
# 外科、小児科、産婦人科志望者は減少傾向にある

## (1) 経時的変化(1年毎)

(\* スライドでは診療科の半分を示しています)



## (2) 男女比



# まとめ

1. 初期研修の充足率は全国的に微増しているものの、地域間や大学間における格差の改善は進んでいない。
2. 大都市部の大学や旧帝国大学での初期研修は、自大学卒業生のみならず、多くの他大学出身者が占めており、研修施設として人気が高い。私立大学は一定数を維持している。
3. その傾向は、後期研修の受け入れ状況において増強され、大学間格差はさらに大きくなっている。この傾向は3～4年前から著明である。
4. 都市部の大学では後期研修医の出向率が上昇しているが、地方大学では回復していない。
5. 後期研修時の診療科の選択（女性医師の診療科選択も含む）において、一定の傾向がみられ、今後、地域間格差や大学間格差のみならず、診療科格差が懸念される。
6. 地方における医師偏在は、地方大学で研修する医師が新臨床研修制度施行前の状態に回復していないことが大きな要因であり、地方大学の僻地への医師派遣能力の回復が急務である。

**初期研修医の充足率：** 平成28年度1年目の初期研修医数 / 初期研修医定員数

**1年目の初期研修医に占める自大学卒の割合：** 自大学卒業生 / 初期研修医数

**受け入れ率：** 受け入れた全初期研修終了者 / 医師国家試験合格者

**出向率：** 出向医師数 / 受け入れた初期研修修了者数